

学生の視点による教育改善案 試行的提示

令和3年7月20日(火)13:45～15:45

田中正弘(教学マネジメント室 教育力向上部門長)

金沢拓也(教育学類4年)

北澤繁人(教育学類3年)

目次

- 第三テーマ班の目的
- 「教育学類生が経験したフィードバックに関する調査」
 - (金沢拓也:教育学類4年)
- 「学生と履修のミスマッチに関する考察」
 - (北澤繁人:教育学類3年)
- 今後の課題





第三テーマ班の目的

第三テーマ班の目的

- 本学の教育改善に興味を有する学生を募り、彼ら／彼女らに、教育改善に用いる質的量的データを収集してもらう。そして、その収集したデータの分析結果から、本学の教育課題を発見してもらう。
 - これらの課題は、**教員とは異なる学生の視点**に基づいて発見されるため、**教員にとって「盲点」となっていた課題**が含まれることを期待できる。
- 従って、本班の目的は、教育課題の発見に「学生の視点」という新たな視点を加えることとする。
 - 授業評価アンケートや学生満足度調査は、学生を対象とした調査であるものの、教員の視点で質問項目が立てられているため、本班の活動には含めない。

本日の発表

- 教育学類の授業「比較高等教育論」の課題として作成した改善案を発表してもらう。
- 発表者とタイトル：
 - 金沢拓也(教育学類4年)
 - 「教育学類生が経験したフィードバックに関する調査」
 - 北澤繁人(教育学類3年)
 - 「学生と履修のミスマッチに関する考察」



金沢拓也(教育学類4年)

「教育学類生が経験したフィードバックに関する
調査」

調査の目的

- アンケート調査・インタビュー調査を基に、フィードバック実施の現状とその影響を把握し、課題を明らかにするとともに改善案を提示する。
 - 以下、フィードバック(FB)を「形態に加えて内容も視野に入れた、学生が受けた試験・提出した課題に対するコメント」として捉える。



アンケート調査の概要

- 2020年11月に教育学類2・3年生（当時）を対象に実施、回答は10件
- 質問の要約は以下の通り
 - 学年・履修単位数・FB経験有無・FB経験授業数
 - 最も印象に残ったFB（自由記述）と受けた影響（選択）
 - FB実施の希望（5件法）とその理由（自由記述）

インタビュー調査の概要

- 2020年11月、アンケート調査に協力してくれた学生1名を対象に半構造化インタビューを実施
- 主な質問は以下の通り
 - 経験したFBのうち、あってよかった(なくてよかった)と思ったものはどのようなものだったか
 - そのFBを受けてどのように感じたか、その後の学習はどう変化したか
 - TAや大学院生からFBを受けた経験はあるか

アンケート調査の結果



■ FB経験率

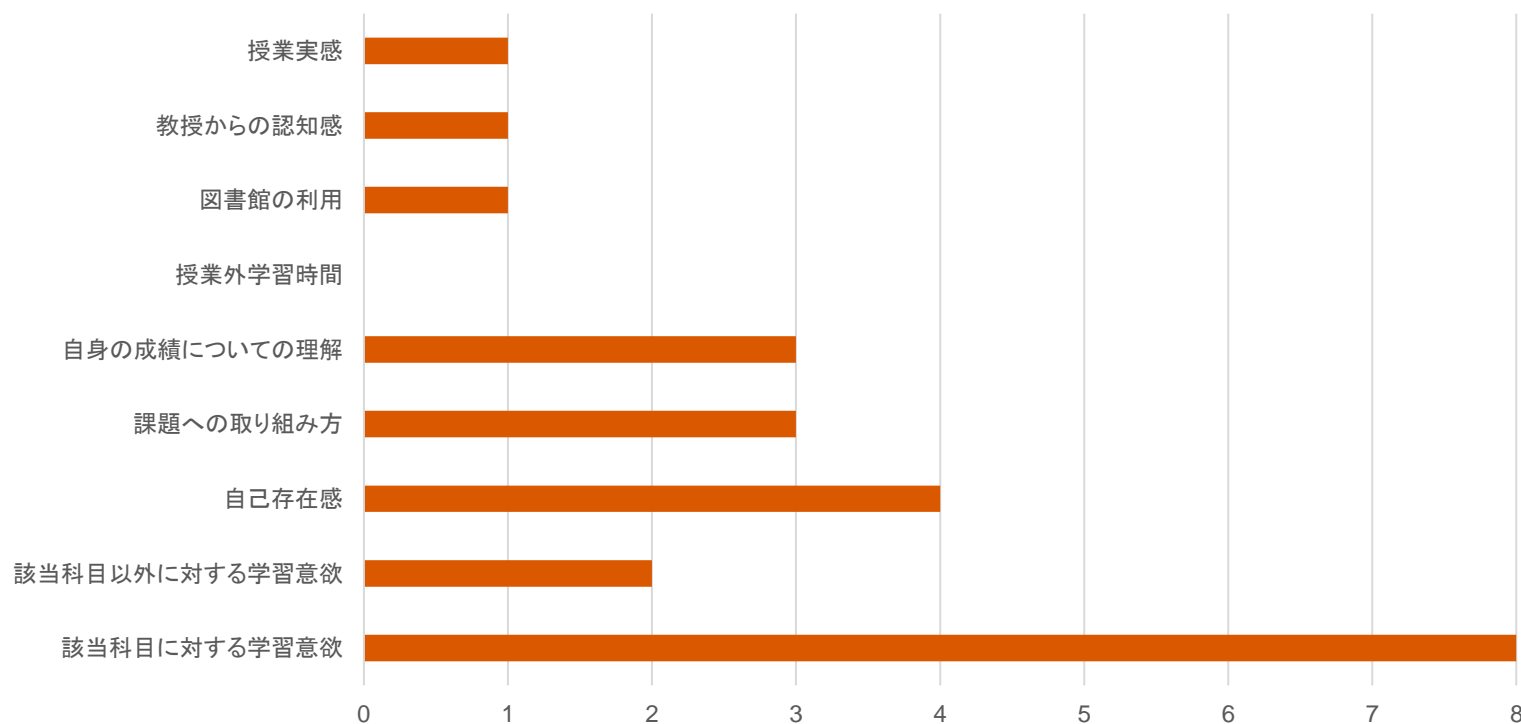
学生	学生A	学生B	学生C	学生D	学生E	学生F	学生G	学生H	学生I	学生J	経験あり 平均	合算平均
FB経験率(%)	10.2	9.9	4.4	5.9	30.6	10.7	25.4	24	0	0	15.1	12.1

- 平均すると8科目受けて1科目でFBを経験する程度で、実施が浸透しているとは言えない
- 学生毎の差が大きく、FBが行われても印象に残らないものになっている可能性がある

アンケート調査の結果

■ 印象に残ったFBによる影響

印象FBによる影響



アンケート調査の結果

- 印象に残るFBであれば、学習意欲の向上に繋がる
 - どのようなFBが印象に残るのか、という課題
- 教員が見てくれている（教員に見られている）感覚が、自己存在感・課題への取り組み方へ影響している
 - 「自分の考えが先生からどう思われているのかということを知りたい」
 - 「コメント書いても先生がそれに目を通してないようなら、それっぽく書いてしまえばいいやと思ってしまう」

インタビュー調査の結果



■ あってよかったFB

■ 課題に対する「具体的なFB」

- 「どのような評価をしてもらえるのか」気になっていたものに対する「こう考えられているのがいい」「こういうポイントはどう」といった具体的な評価
- 肯定的なFBを受けて「自分がやっていることをこのまま続けよう」という自信に

■ 課題に対して「探究心が残った」FB

- 「しっかりかいたつもり」の考察に、「他の資料あたれば、もっと深い考察ができるんじゃないか」と提示
- 実際に他の資料にあたる行動に繋がった

インタビュー調査の結果

■なくてよかったFB

■「出席確認替わりの小レポート」へのFB

- 小レポートに対して「講義形式だし」、「さほど考えて書いているわけではない」と、十分に考察を行うものという認識を持っておらず、「あまり意味はなかった」
- 学生自身は「講義へのモチベーションが高くなかった」ことが影響していると分析
- むしろ「(期末課題の)レポートへのフィードバックが欲しかった」



調査の結果

- FBの実施自体が持つ影響と、FBの内容が持つ影響とが存在する
- 学生によって影響の受け方が異なる

改善案の提案

- TAを利用した、FB実施の量的拡大
 - 「大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会の提供を図る」本学のTA制度の趣旨を活かす
 - 院生の中に評価やFBに触れておくことで、将来的負担を軽減
- 課題の内容に重点を置く、FB内容の質的向上
 - 評価した部分の(肯定的)伝達
 - 学生と異なる視点・意見や文献を提示する形で、学習や行動へ誘導





北澤繁人(教育学類3年)

「学生と履修のミスマッチに関する考察」

問題点と目的

- 現在の履修システムにはいくつかの問題点がある
 - 例えば、大学では多くの学生がシラバスや知人からの情報を参考に授業の履修を行っているが、大学が学生に提供するシラバスが情報源としての役割を十分に果たしているのかは疑問である
- 本発表の目的は、独自に行った調査を基に現行の履修システムに対する学生の意識・評価を把握することで、そこにある問題点を明らかにし、学生が望んでいたものとは違った形での履修を行ってしまう事態（以下、学生と履修のミスマッチ）を防ぐための案を提示することである



学生と履修のミスマッチ (三つの要素)

- ① シラバスの情報量
- ② 学生の授業に対する認識(期待・予想)と実際の授業内容間にあるギャップ
- ③ 履修登録期間の在り方



①シラバスの情報量が不十分

■ 理念

■ 「各授業科目の詳細な授業計画」

→ 準備学習等の具体的な指示

→ 教科書・参考文献

→ 履修条件

(厚生労働省,2013)

■ 実態

■ ほとんどの大学で授業内容が明示されている

しかし,

→ 「記載内容に関してはばらつきが多い」

→ 一部項目に関して「低い水準にとどまっている」

(中央教育審議会,2017)



②学生の認識と実際の授業内容

■履修前に得られる情報の不足

→学生の授業に対する認識(期待・予想)と実際の授業内容間のギャップを生む

■このギャップを解消すれば学生と履修のミスマッチを大幅に減らすことができる



③履修登録期間の在り方

■ 制度

- 筑波大学(2019年)
- 期間:4月8日~24日
- 授業開始:4月11日
=制度上は実際に授業を受けて内容を確認したうえで自由に履修変更を行うことが可能な期間が2週間ある

(筑波大学公式サイト,2019)

■ 学生の認識

- 履修を取り消し同じコマに新たな授業を履修し直した場合
 - ガイダンスに参加できない
 - 出席回数の問題
 - 授業内容に関して後れを取る
 - =履修の取り消しは容易でも、取り直しは困難なのは?

(履修変更の不自由)



調査概要

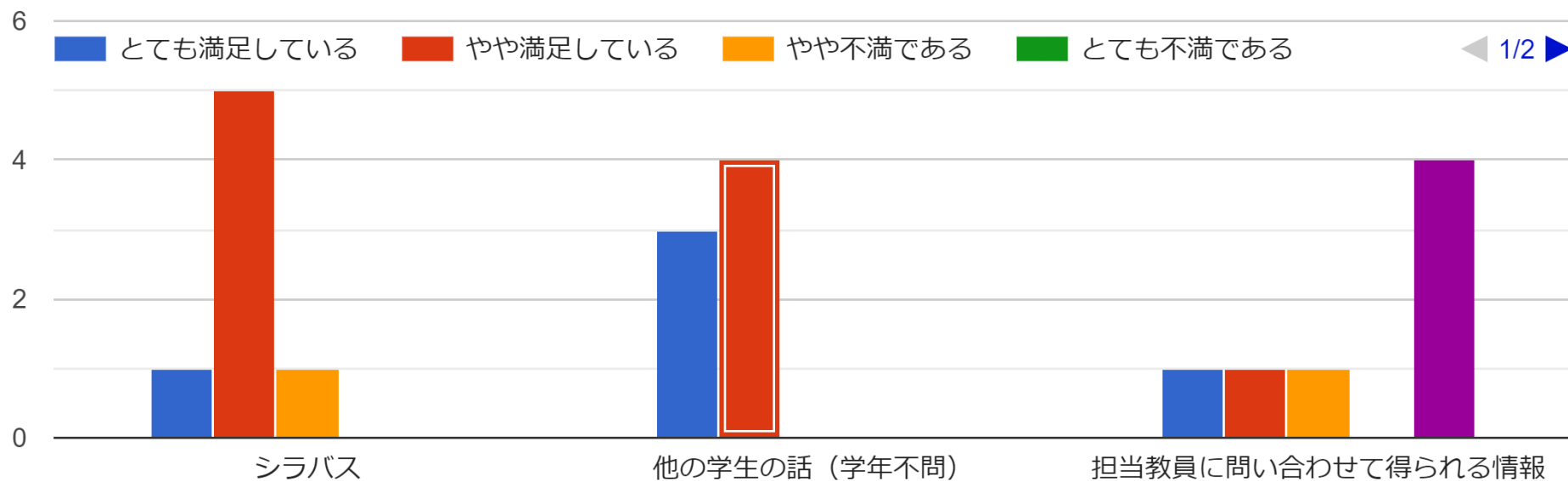
- 調査形態：量的調査
- 調査対象：筑波大学社会学類2年生
- 回答者数：7名
- 調査期間：11月13日～11月18日



シラバスで得られる情報への満足度

■ 満足している(とても・やや満足): 85.7%
→ 学生のシラバスへの満足度は高い

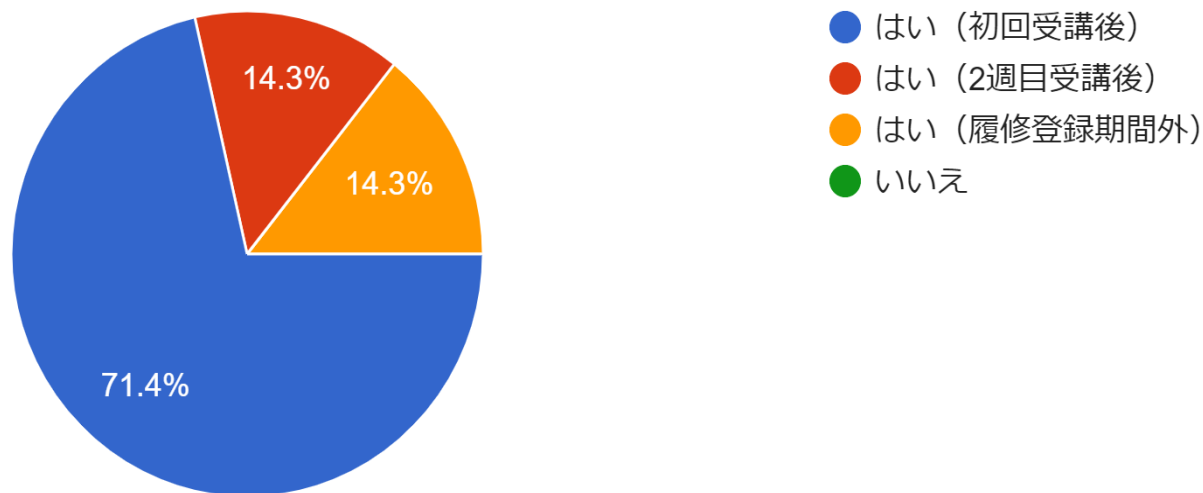
④履修前に参考にする情報として以下の3つに対する現在の満足度を教えてください。



履修取り消し経験の有無

■ 全学生が「履修取り消し経験」があると回答

①一度履修した授業の履修をやめた経験はありますか...タイミングでやめることが最も多かったですか？
7件の回答

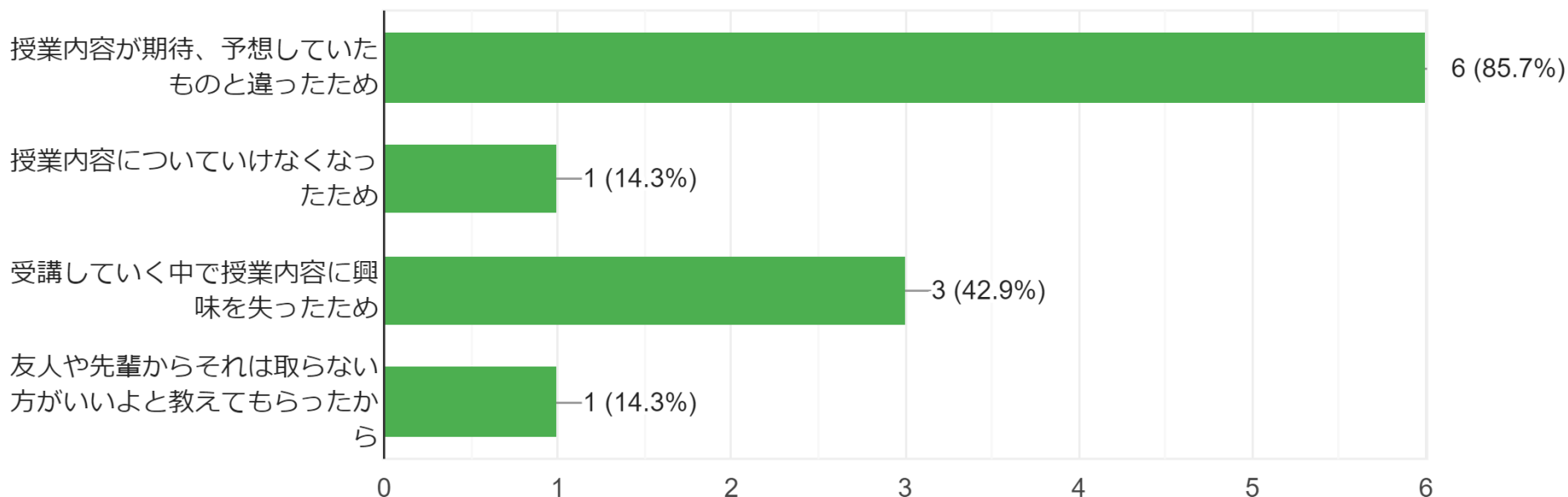


「履修取り消し」の理由

- ほぼ全ての学生(85.7%)が、自分の認識と実際の授業内容にギャップを感じたためと回答

「はい」とご回答された方に聞きします。その理由は何ですか？（複数回答可）

7件の回答



シラバス上の各項目について

■ シラバス

■ 「授業形態」

■ 「授業計画」

■ 「履修条件」

→ 形式的

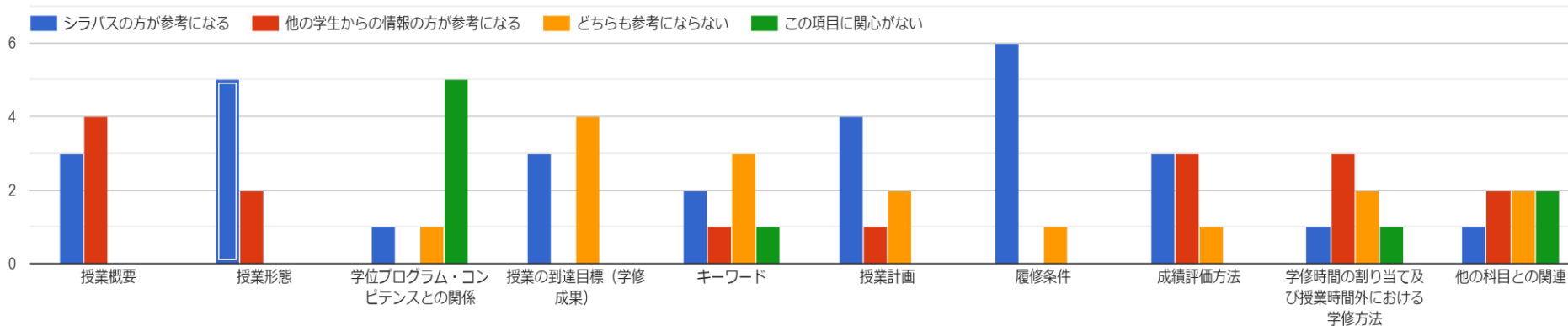
■ 他の学生

■ 「授業概要」

■ 「学修時間の割り当て及び授業外における学修方法」

→ 内容的

⑤シラバスにおける以下それぞれの項目について、「シラバスから得られる情報」と「他の学生...問）から得られる情報」を比較した時、履修の際により参考になると感じるのはどちらですか？



アンケート結果のまとめ



1. 多くの学生がシラバスの内容に満足している
2. 学生と履修のミスマッチは多く存在する
3. 学生は授業の内容的な確認については、シラバスより他の学生からの情報を参考にする傾向がある

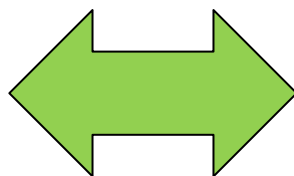
アンケート結果のまとめ

理念

「学習の機能を高める
文書としての機能」

「授業の雰囲気伝える
文書としての機能」

(厚生労働省,2013)



実態

授業の形式的な情報の
提供にとどまる。

授業の内容にかかわる
情報は他の学生から
のものが参考に。

学生の意識に関する考察

■学生のシラバスに対する期待・信頼の低下



最も近い距離にあるのが上級生などの他学生の
意見、体験談



学生の意見＝(大学による)質の保証がない



学生は不確実な情報を基に履修を行う



学制と履修のミスマッチが発生する要因

ミスマッチの持続性について



■ 履修登録期間

- 筑波大学(2019年)
- 期間:4月8日~24日
- 授業開始:4月11日

＝制度上は実際に授業を受けて内容を確認したうえで自由に履修変更を行うことが可能な期間が2週間ある

(筑波大学公式サイト,2019)



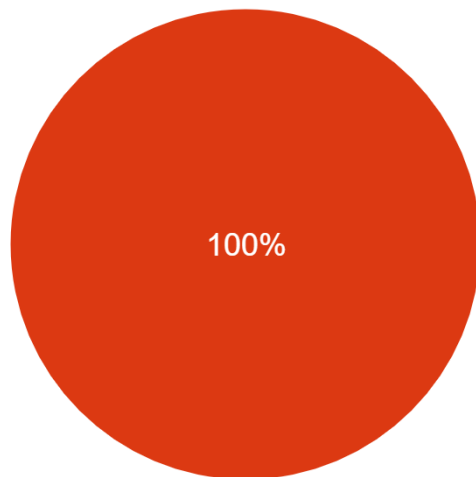
ミスマッチが生じても履修取り消しが可能なため、それは持続しない？

履修登録期間の学生心理①

■ 履修取り消し: 抵抗なし

②授業の履修をやめることに抵抗はありますか？

7件の回答

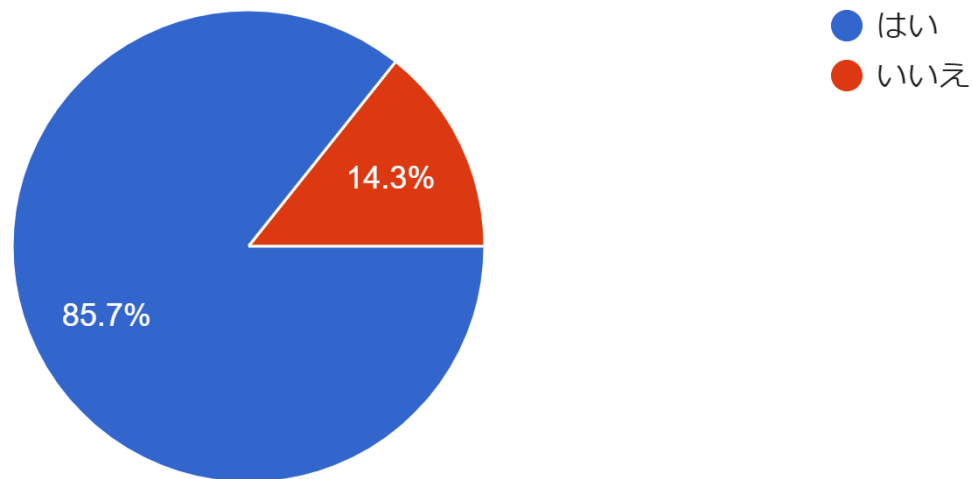


● はい
● いいえ

履修登録期間の学生心理②

- 履修取り消し: 抵抗あり
- 理由: 初回の授業を特別視、内容・出席面での後れ

③ある授業を2週目以降から履修することに不安・抵抗はありますか？
7件の回答



ミスマッチ持続の可能性



「履修登録の自由」

- ・2週間の変更猶予
- ・全学生が「履修取消しに抵抗なし」



学生と履修のミスマッチは持続しない

「履修登録の不自由」

- ・2週目以降から履修することへの不安・抵抗
- ・卒業単位を意識



学生と履修のミスマッチは持続し得る

学生と履修のミスマッチ

■ 発生

・情報の量・質の問題

- ①シラバスの情報不足
- ②学生のシラバスに対する期待・信頼度の低下
- ③学生間で交換される情報の質保証が困難



ミスマッチ発生

■ 持続

・履修登録期間の問題

- ①初回授業を特別視
- ②履修取消しは容易でも変更は容易ではない
- ③卒業単位への意識
- ④現状維持(履修継続)



ミスマッチの持続



改善策：初回授業のオンデマンド化①

■ ミスマッチ発生

・情報の量・質の問題

- ① シラバスの情報不足
- ② 学生のシラバスに対する期待・信頼度の低下
- ③ 学生間で交換される情報の質保証が困難



ミスマッチ発生

■ 初回オンデマンド化

・全学生が全ての初回授業を視聴可能

→正しい情報を取得

→他学生からの情報を過度に履修の参考にすることを抑制

※テキストベースのシラバスよりもより柔軟な授業説明が可能



改善策：初回授業のオンデマンド化②

■ 持続

・履修登録期間の問題

①初回授業を特別視

②履修取消しは容易でも
変更は容易ではない

③卒業単位への意識

④現状維持(履修継続)



ミスマッチの持続

■ 初回オンデマンド化

・期間内に全て授業に参加可能



「内容的遅れ」解消

・出席票もmanaba上である程度の期間を設けて提出可能に



「出席日数の問題」解消

総合選抜

■ 1年次に学群・学類を定めない

→履修の対象となる授業が従来の学生よりも多い

→初回授業やその中のガイダンスだけでも全て確認できる

→より多くの学問分野に触れるための支援にも繋がる





今後の課題

今後の課題

- 全学レベルで、多分野の学生に、どのように参画してもらえるか？
- 学生が収集するデータの質を高めるために、どのようにすべきか？
- 学生が作成した改善案を、学内でどのように活用すべきか？
 - 学内の評価活動(プログラム・レビューなど)に参画した学生にインタビュー調査を行う。



ご清聴ありがとうございました。

参考文献

- 「開設授業科目一覧2019年度」(筑波大学公式サイト,2019)
<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/2019index.html>
- 「履修要覧2019年度」(筑波大学公式サイト,2019)
<http://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/2019directory.html>
- 「大学等におけるキャリア教育実践講習テキスト」(厚生労働省,2013)
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyounouryokukaihatsukyoku/0000087057.pdf>
- 「学士過程教育の構築に向けて(答申)」(中央教育審議会,2008)
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/26/1217067_001.pdf
- 「今後の高等教育将来の提示に向けた論点整理」(中央教育審議会,2017)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/_icsFiles/afieldfile/2018/01/16/1400115_01.pdf
- 筑波大学2021年度入試案内—総合選抜とは—(筑波大学アドミッションセンター)
<https://ac.tsukuba.ac.jp/nyushi/sougou>

